

引用

I. 引用について

様々な資料からの引用は、自分の論を助けるもの（補助するもの）として大変役立つ。その際気をつけるべき点は2つ。

- A. 原典の資料を正確に写すこと。
- B. 出典を明記すること。

以上のことを踏まえつつ、自分の論文のあくまで補助として、引用を用いることが望ましい。

II. 引用の基本的なルール

詩を引用する場合も散文を引用する場合も、引用の仕方は

- A. 本文中に引用を組み入れる（引用符を用いる）
 - B. 本文から独立させて引用する（引用符を用いない）の2通りある。
- それぞれの引用方法を以下に具体的な例を出し説明する。

A. 引用を本文中に組み入れる場合

1. 外国語の文または語句を引用する場合

- ・ 引用する語句や文をダブルの引用符 “ ” で囲む
- ・ 訳を引用の前につける

例)

“Tug o’ war”は、「綱引き」という意味だが、この詩では「力いっぱい引っ張ること」“tug”が「抱きしめること」“hug”に置き換えられ、「逢引き」“hug o’ war”となっている。

2. 日本語の文または語句を引用する場合

引用する語句や文をかぎかっこ「」で囲む。

例)

「まだ見ぬ地」とは真に新しい「アメリカ独自の詩」という分野のことではないだろうか。つまり、ホイットマンから始まる「イギリス文学の伝統から独立した、真に独自で自由な詩」（高田、板橋 87）のことだ。まさにそれは誰も手をつけたことのない、未開拓の分野（領域）であったと言える。

3. 本文中の引用文にダブルの引用符 “ ” または 「 」 がある場合
引用の中のダブルの引用符 “ ” は、シングルの引用符 ‘ ’ にする。
引用の中のかぎカッコ 「 」 は白抜きかぎカッコ 『 』 にする。

例)

“Whispers” would explore the “deep themes of Death & Immortality”
これを本文中に入れる。

ホイットマン自身は W.M.ロセッティ(W.M. Rossetti)にあてた手紙の中で詩群
“Whispers of Heavenly Death”について以下のように説明している。「詩群『天上の
死のささやき』は『死』と『不死』という深いテーマを探究しようとしている」
“Whispers’ would explore the ‘deep themes of Death & Immortality” (qtd. In
LeMaster and Kummings 474)。

4. 音楽、音声・映像作品を引用する場合
音楽や、音声・映像作品を引用することも可能である。引用の方法は、詩や散文と同様に考えればよい。ただしその際は引証する資料の内容を正確に聞き取り、引用する必要がある。

日本語例)

谷川俊太郎は、詩を創作する最初のプロセスとして「自分を空っぽにするっていうことに一生懸命集中するんです。」(『詩人・谷川俊太郎さん』 00:01:52-56) と述べている。

英語例)

Buffy’s promise that “there’s not going to be any incidents like at my old school” is obviously not one on which she can follow through (“Buffy” 00:03:16-17).

B. 引用を本文から独立させる場合

引用を強調させたい場合、まとまった文章を引用する場合は本文から独立させ引用する。この引用の仕方の場合、外国語の語句や文を引用するときも日本語を引用するときも以下の規則が同じように適用される。

1. 本文から 1 行あけ、新しい行で始める。
2. 変則のスペース取りになっている場合を除き、各行は左のマージンからインデントを 2 文字分あける。(全角スペース 2 文字分) 引用する文章を網掛け選択して、「インデント」のボタンを二回押すと便利です。

3. 引用符は必要ない。ただし原文中に引用符がある場合は、その引用符はそのままの形で再現する。
4. 引用が終わり本文に戻るときは、引用と次の文章との間に1行あける。
(注) 散文と詩では独立させて引用する場合、若干違いがあるので、その違いに気をつけること。
5. **日本語訳は引用の前に書く**

次ページに具体的な例を出す。

例) 英語の文を本文から独立させて引用する場合

イス図書館司書でもあるレスリー・ホールト(Leslie Holt)は、ウェブサイト *CNN.com* の記事でこのように述べている。

1行あける

私は、シルヴァスタインは本当に開拓者だったと思います。 [略] 彼は子供達にとってユーモアを実に問題のないものにしてくれました。私たちはみんな、児童文学の中にずらりと並んだユーモアに慣れていますが、(彼が現れる前は、) 児童文学は面白味のないものでした。

1行あける

I think he really was a pioneer [. . .]. He really made humor OK for kids. We're all used to having an array of humor in children's literature, [but before him,] it was bland. (*CNN*)⁽¹⁾

1行あける

ホールトが言っているように、シルヴァスタインは児童文学界の開拓者といっても過言ではないだろう。

例) 日本語の文を本文から独立させて引用する場合

また小泉純一氏⁽¹⁰⁾は『物語の楽しみ』に収録されている「シェルおじさんの詩のある絵本」の中で、この詩について次のように述べている。

一行あける

シルヴァスタインの活躍した 1960~70 年代は公民権運動や反戦運動が盛んな時代でした。ベトナム戦争があった時代でした。戦争の代わりに平和をとという意味で「ラブ・アンド・ピース」が標語となった時代でもあります。シルヴァスタインは兵役についていますが、戦いには反対のようです。綱を引っ張りあうだけでもいやなので、ハグをしようと訴えています。様々な国で民族紛争が起こっている時代にこういわれても説得力がないように聞こえるかも知れませんが、しかし 1 つの理念としてこのように主張することの意味は大きいと思います。それが今現実でなくとも、向かうべき方向を示してくれるからです。60年代というのは、どんなに大げさな理念を語っても、みんながまじめに聞いてくれた時代でした。シルヴァスタ

地の文に対して、引用する文章は二文字分インデントする。

インの作品の中には当時へのノスタルジーをかき立てるものがあります。しかし時代の違いを抜きにしても、このようなメッセージは今後も伝わっていくと思います。（小泉 186）

一行あける

このように、シルヴァスタインの作品は子供から大人まで、また、国境を越えて様々な人に読まれており、影響を与えていることがわかった。それほど、彼の詩には魅力があるのだ。

C. 引用の訳(2.7.8)

引用の言語が読者にとってなじみの薄い場合は訳を付ける必要がある。

1. 本文中の引用に訳を付ける場合はその引用の**前**に書く。またその訳は一重のかぎかっこ「」でくくる。

例)「力いっぱい引っ張ること」 “tug”

(詳しくはⅡ.A.1.の例を参照すること)

2. 本文から独立した引用に訳をつける場合、引用符は必要ない。引用の**前**に訳をつける。その際も各行は左マージンから全角スペース2文字分下げたところから始める。(Ⅱ.B.の英語の文を本文から独立させて引用する場合の例を参照すること)
3. その訳が自分のものでなく、他者が訳したものを引用する場合はその出典もまた明記する必要がある。

Ⅲ. 詩の引用

A. 引用を本文中に組み込む場合

以下の2つの場合は引用符を用い、本文中に組み込み引用すること。

1. 詩の1行または1行以内を引用する場合

(例はⅡ.A.1.を参照すること)

2. 詩の2行または3行を引用する場合

引用符で囲み本文の中に入れるが、行と行の間は斜線で分ける。

例)「引っぱり合う代わりに／みんなが抱き合い」“Instead of tugs, / Where everyone giggles”(4-5)

(注) 半角英数字の斜線(/)と全角(日本語用)の斜線(／)の使い分けに気をつけること。

(注) また半角英数字の斜線(/)を使う場合、その斜線の前後に1スペースずつあける。

B. 本文から独立させて引用する場合

1. 全文引用するとき
2. 4行以上引用するとき
3. 特に強調したいものを引用するとき

この3点においては本文から独立させ引用する。

この場合も上記の II. B. の規則が適用される。

次ページに例として、シェル・シルヴァスタイン (Shel Silverstein, 1930-99) の詩「逢引き」“Hug O’ War” を引用する。またこの詩に対する日本語訳の付け方も明記する。

例)

本文との間に 1 行あける

逢引き

1 行あける

綱引きなんかしない。
逢引のほうがいい。
引っぱり合う代わりに
みんなが抱き合い
クスクス笑って
ラグに転がり
キスしあって
にこっと笑い
寄り添い合って
そしてみんなが勝つところ。

1 行あける

Hug O’ War

1 行あける

I will not play at tug o’ war.
I’d rather play at hug o’ war,
Where everyone hugs
Instead of tugs,
Where everyone giggles
And rolls on the rug,
Where everyone kisses,
And everyone grins,
And everyone cuddles,
And everyone wins. (*Sidewalk* 19)

本文との間に 1 行あける

(注) 本文中で引用の前に、「次にシルヴァスタインの“Hug O’ War” を引用する。」と前書きがある場合は、題を再度書く必要はなく、詩の本文の引用から始める。

D. 引用する行が長すぎて、1 行に収まらない場合

この場合は、次の行に続けて書く。その際に、次の行は、前の行の文頭よりさらに全角 1 文字分下げたところから始める。例としてウォルト・ホイットマン (Walt Whitman, 1819-92) の詩「君へ」(“To You”)を引用する。

(例)

本文と 1 行あける

君に

1 行あける

見知らぬ者よ、もし君が歩み行くなかで、私と出会い、話しかけたいと思うなら、話しかけてはならない理由があるのか。←三文字分下げる
そして私が君に話しかけてはならない理由があるのだろうか。

1 行あける

To You

1 行あける

Stranger, if you passing meet me and desire to speak to me, why should you not speak to me? ←3 文字分下げる

And why should I not speak to you? (*Leaves of Grass* 175)

本文と 1 行あける

E. 原典の行下げやスペース取りが変則な場合

それをできるだけ忠実に再現する。例として、ゲーリー・スナイダー (Gary Snyder, 1930-) の詩「こんな風に」 “How” を引用する。1 行目、また行の始めが小文字である点に特に注意。勝手に自分の都合のいいように原文を変えないこと。また、打ち間違えに注意。

(例)

こんな風に

1 行あけ

小鳥たちは 飛び移る
枝から
枝 枝へ

枝から 枝 枝へと

1 行あけ

How

1 行あけ

small birds flit
from bough
to bough to bough

to bough to bough to bough (*Danger on Peaks* 29)

F. 行の途中から引用を始める場合

左につめて書き始めるのではなく、そのままの形で再現する。例としてホイットマンの詩「君へ」“To You”を引用する。(IVに全文が載っているので参照すること)

例)

ホイットマンは読者に彼の詩を通して「彼(ホイットマン)自身」と向き合うことを求めている。例えば“**To You**”において語り手は、読者に対し“**Stranger**”と呼びかけた後に以下のような疑問を投げかけている。

1行あける

話しかけてはならない

理由があるのか。

そして私が君に話しかけてはならない理由があるのだろうか。

1行あける

why should you not

speak to me?

And why should I not speak to you? (*Leaves of Grass* 175)

1行あける

この詩で語り手が私たちに問うていることは以下のことと考えられる。

(注) 上の例は特にこの詩を強調したいため本文から独立させて引用している。

このように行の途中から引用する場合であっても、特に強調させる必要がないときは、2、3行の引用は引用符を用いて本文中に組み込めばよい。

IV. 散文の引用

A. 引用を本文中に組み込む場合

4行以内の散文は引用符で囲み本文中に入れる。

B. 引用を本文から独立させる場合

5行以上引用する場合

(もちろん複数のパラグラフを引用する場合もこれにあてはまる)

この場合も上記のII. B.の規則が適用される。

C. 2つ以上のパラグラフを引用する場合

1つのパラグラフ、またはその一部を引用する場合は、始めの行を字下げする必要はないが、2つ以上のパラグラフを引用する場合はそれぞれのパラグラフの1行目を1文字分下げて始める。

(注) ただし、引用の1行目がパラグラフのはじめではないときは、字下げする必要はない。次のパラグラフの1行目だけ字下げする。

例) ホイトマンの「これまでの旅路を振り返り」(“A Backward Glance o’ er Travel’ d Roads”)の冒頭を引用する。(□が字下げしている部分)

おそらく今まで聴いた歌、真の愛、人生でもっとも美しいエピソード、水兵、兵士が陸や海で必死にがんばる様子など、何もかもすべてを描いた歌の中で最高のものは、ずっと後に、はるか遠い過去の事実を実際の過ぎ去った励起で見、それらをまとめたものだ。魂はこんな思い出話の中を浮遊するのが大好きなんだ。

□だから私は古き時代の燃え始めの蠟燭の明かりのもとここで座りむだ話をし、私と我が本は、振り返り私たちのこれまでの旅路にざっと目を向けているんだ。

Perhaps the best of songs heard, or of any and all true love, or life’s fairest episodes, or sailors’, soldiers’ trying scenes on land or sea, is the *resume* of them, long afterwards, looking at the actualities away back past, with all their practical excitations gone. How the soul loves to float amid such reminiscences!

□So here I sit gossiping in the early candle-light of the old age--I and my book--casting backward glances over our travel’d road. (*Leaves of Grass* 656)

V. 引用の省略

論の構成上、引用の一部を省略する場合は、省略する部分に省略記号(. . .) (実際に括弧は入らない)を入れる。

また、省略の量に関係なく省略記号は1つで表す。

以下これについて「これまでの旅路を振り返り」(“A Backward Glance o’ er Travel’ d Roads”)の第1スタンザとその訳を例とし説明する。

おそらく今まで聴いた歌、真の愛、人生でもっとも美しいエピソード、水兵、兵士が陸や海で必死にがんばる様子など、何もかもすべてを描いた歌の中で最高のものは、ずっと後に、はるか遠い過去の事実を実際の過ぎ去った励起で見、それらをまとめたものだ。魂はこんな思い出話の中を浮遊するのが大好きなんだ。

Perhaps the best of songs heard, or of any and all true love, or life’s fairest episodes, or sailors’, soldiers’ trying scenes on land or sea, is the *resume* of them, long afterwards, looking at the actualities away back past, with all their practical excitations gone. How the soul loves to float amid such reminiscences!

(*Leaves of Grass* 656)

A. 外国語の文における省略記号

前後の文章との間に半角1スペースずつあげ、省略記号 . . . を入れる。

(注) . . . と間違えないように。ピリオド同士の間には半角1スペースずつ入るが、角

かっことピリオドの間にはスペースは入れない。

例) 1、2行目の “or life’ s fairest episodes, or sailors’ , soldiers’ trying scenes on land or sea, ” を省略する場合

Perhaps the best of songs heard, or of any and all true love . . . is the *resume* of them, long afterwards, looking at the actualities away back past, with all their practical excitations gone. How the soul loves to float amid such reminiscences!

(*Leaves of Grass* 656)

B. 日本語の文における省略記号

前後の文章との間に全角 1 スペースずつあげ、省略記号 [略] を入れる。

上記の “A Backward Glance o’ er Travel’ d Roads” の訳を例とし以下に引用する。

例) 1、2 行目の「人生でもっとも美しいエピソード、兵士、兵士が陸や海で必死にがんばる様子など、何もかもすべて」を省略する場合 (全文は IV. C の例を参照すること)

おそらく今まで聴いた歌、真の愛 [略] を描いた歌の中で最高のものは、ずっと後に、はるか遠い過去の事実を実際の過ぎ去った励起で見、それらをまとめたものだ。魂はこんな思い出話の中を浮遊するのが大好きなんだ。

C. 省略記号が文末にある場合

1. 本文から独立した引用の文末を省略する場合

a. 外国語の文章

(. . .). となる。省略のピリオドの後に半角スペースが入り、文末のピリオドが入る。

例) “long afterwards, looking at the actualities away back past, with all their practical excitations gone” を省略する。

Perhaps the best of songs heard, or of any and all true love, or life’s fairest episodes, or sailors’, soldiers’ trying scenes on land or sea, is the *resume* of them . . . How the soul loves to float amid such reminiscences! (*Leaves of Grass* 656)

b. 日本語の文章

閉じの角かっこに続け、スペースなしで文末の句点をうつ。

この場合の例として、上記の V. C. 1. a の例文に対応させた日本語訳を引用する。

例)

おそらく今まで聴いた歌、真の愛、人生でもっとも美しいエピソード、水兵、兵士が陸や海で必死にがんばる様子など、何もかもすべてを描いた歌の中で最高のものは、それらをまとめたものだ [略]。魂はこんな思い出話の中を浮遊するのが大好きなんだ。

2. 引用符を用いた引用の場合

a. 外国語の文章

ピリオドの後に引用符の “ ” をつける。

例)

ホイットマンは『草の葉』(*Leaves of Grass*)の結び「これまでの旅路を振り返り」(“A Backward Glance o'er Travel'd Roads”)(*Leaves of Grass* 656)の中で以下のように述べている。“Perhaps the best of songs heard, or of any and all true love, or life's fairest episodes, or sailors', soldiers' trying scenes on land or sea, is the *resume* of them”彼はここで *Leaves of Grass* それ自体について明記している。

b. 日本語の文章

句点の後に引用符「」をつける。

例)

関根さんはホイットマンの『草の葉』(*Leaves of Grass*)の結び「これまでの旅路を振り返り」(“A Backward Glance o'er Travel'd Roads”)(*Leaves of Grass* 656)の一部を引用して、以下のように述べている。「ホイットマンは、『おそらく今まで聴いた歌、真の愛、人生でもっとも美しいエピソード、兵士、兵士が陸や海で必死にがんばる様子など、何もかもすべてを描いた歌の中で最高のものは、それらをまとめたものだ [略]。』と述べ、この中で *Leaves of Grass* の主題とその意義について言及している。」

(注) 引用符を用いた引用のあとにかっこ内引証が続く場合は除く(これについてはかっこ内引証の項目を参照すること)。

D. 詩の引用の省略

1. 語句を省略する場合

省略記号を用いる。

2. 1行以上省略する場合

省略記号を用いる。その際省略記号は、省略する詩行の長さにできるだけあわせるようにする。

(注) 何行省略しても省略記号は1行だけいれればよい。

例としてシルヴァスタインの詩「逢引き」(“Hug 0' War”)を引用する。(この詩の全文はⅢ.Bを参照すること)

例)

3、4、5行目 “Where everyone hugs / Instead of tugs, / Where everyone giggles” を省略する。

逢引き

綱引きなんかしない。

逢引きのほうがいい。

[略]

ラグに転がり

キスしあって

にこっと笑い

寄り添い合って

そしてみんなが勝つところ。

Hug O' War

I will not play at tug o' war.

I'd rather play at hug o' war.

.....

And rolls on the rug,

Where everyone kisses,

And everyone grins,

And everyone cuddles,

And everyone wins. (*Sidewalk* 19)

VI. 引用文の補足

引用の内容が読者に不明瞭または混乱を与える場合、原文に欠けている項目を補うことができる。

A. 本文中に組み込んだ引用語句に補足を加える場合

1. 外国語の文

引用語句のすぐあとに、半角の丸かっこ()をつけ、その中に補足を入れる。

例)

カミングスは自分の名前を“e. e. cummings” (*sic*)とサインしていた。

“*sic*”は原文が上のように間違っていないことを用いるさい付加する。

2. 日本語の文

引用語句のすぐあとに、全角の丸かっこ()をつけ、その中に補足を入れる。

例)

先日出版した作品の中で関根さんは自分の名前を「関根みちよ」(原文のまま)と明記していた。

B. 本文から独立した引用文に補足を加える場合

1. 外国語の文の場合

補足を付け加えたい語句の前後に角かっこ [] をつけ、その中に補足を入れる。

例としてレスリー・ホールト (Leslie Holt) がシルヴァスタインについて語っているウェブサイト *CNN.com* の記事を引用する。

例)

I think he really was a pioneer [. . .] He really made humor OK for kids. We're all used to having an array of humor in children's literature, [but before him,] it was bland. (*CNN*)

2. 日本語の文の場合

補足を付け加えたい語句の前後に丸かっこ () をつけ、その中に補足を入れる。

例として上記の *CNN.com* の記事の訳を引用する。

例)

私は、シルヴァスタインは本当に開拓者だったと思います。 [略] 彼は子供達にとってユーモアを実に問題のないものにしてくれました。私たちはみんな、児童文学の中にずらりと並んだユーモアに慣れていますが、(彼が現れる前は、) 児童文学は面白味のないものでした。

C. 引用文中の代名詞が不明瞭な場合

1. 外国語の文中の代名詞

不明瞭な代名詞の後に角かっこ [] をつけ、その中で前の代名詞をはっきりさせる。

例としてレスリー・ホールト (Leslie Holt) がシルヴァスタインについて語っているウェブサイト *CNN.com* の記事を引用する。

例)

I [Leslie Holt] think he [Silverstein] really was a pioneer . . . He [Silverstein] really made humor OK for kids. We're all used to having an array of humor in children's literature, [but before him,] it was bland. (*CNN*)

2. 日本語の文中の代名詞

不明瞭な代名詞のあとに丸かっこ () をつけ、その中で前の代名詞をはっきりさせる。例として上記の *CNN.com* の記事の訳を引用する。

例)

私 (レスリー・ホールト) は、シルヴァスタインは本当に開拓者だったと思います。 [略] 彼 (シルヴァスタイン) は子供達にとってユーモアを実に問題のないものにしてくれました。私たちはみんな、児童文学の中にずらりと並んだユーモアに慣れていますが、(彼が現れる前は) 児童文学は面白味のないものでした。